

Reference D6

Japanese Utility Model Kokai No. 61-134712

Laid-opening date: 22 August 1986

Application No.: 60-17779

Filing date: 13 February 1985

Applicant: KK Yamada Atomizer, Tokyo

Title: Perfumery receptacle

Claim:

A perfumery receptacle comprising the steps of:
providing ^{annularly} a collar portion 2 in the top peripheral side of a lid body 1 adapted to engage with the mouth portion of a receptacle 10 which contains perumery;

providing a pressing button body 4 of a lifting piston 3 which is formed with a recessed insertion portion 13 from the top surface at the center of said lid body 2 and in the side of which an injection nozzle 8 is formed via an elastic member 5;

inserting the lower end of said lifting piston 3 into a cylinder 6 provided in said lid body 1;

inserting said cylidner 6 into the mouth portion 11 of said receptacle 10; and

connecting a pipe 7 in said cylinder 6, said pipe suspending in the receptacle 10, and also providing a check valve 16 therein.

EMBODIMENT

A material embodiment according to the present invention as described above will be explained hereunder with regard to the accompanying drawings. As shown in Fig. 1, it is the same as in known perfumery receptacle that in the present invention a lid body 1 is screwed in the mouth portion 11 of a receptacle body 10, and the lid body 1 is disengageably mounted by such screwing or other structure. According to the present invention, however,

BEST AVAILABLE COPY

a collar portion 2 is annularly provided in the top surface peripheral side of the lid portion 1, and the upper surface of said collar portion 2 is applied with a petal pattern 12 as illustrated in Fig. 2. Further, a recessed insertion part 13 is formed from the top surface at the center of such lid body 1, a hollow lifting piston 3 is inserted into the center of said recessed insertion portion 13, a pressing button body 4 formed with an injection nozzle 6 being directed to the side face is attached to the upper portion of said lifting piston 3, and the inside hole of said hollow lifting piston 3 is communicated with said injection nozzle 8. Between said pressing button body 4 and the recessed insertion portion 13 of said lid body 1 an elastic member 5 is involved so as to act always to lift the pressing button body 4. Further, a cylinder 6 which inserts the lower end of said lifting piston 3 is formed in the lid body 1, and said cylinder 6 is insertion fitted in the mouth portion 11 of said receptacle 10. The lower end of said cylinder 6 is provided with a check valve 16 like ball valve, and to its lower portion is connected a sucking pipe 7 which reaches the bottom of said receptacle 10. A packing is mounted to the lower outer surface of said piston 3, and while the piston 3 obtains a free lifting by the pressing against the pressing button body 4 and the reversing action of the elastic member 5, an effective relation is established between it and the inner face of the cylinder 6. Moreover, a packing 7 is provided between the hollow lifting piston 3 provided in the pressing button body 4 and the lid body 1, and also a thin-layer valve body 9 is properly provided between said piston 3 and a nozzle 8 whereby useless loss of perfumery components is prevented.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-134712

⑬ Int. Cl.

A 45 D 34/02
B 65 D 83/14

識別記号

庁内整理番号

6671-3B
D-7912-3E

⑭ 公開 昭和61年(1986)8月22日

審査請求 未請求 (全1頁)

⑮ 考案の名称 香水容器

⑯ 実 願 昭60-17779

⑰ 出 願 昭60(1985)2月13日

⑱ 考 案 者 山 田 博 條 東京都江戸川区北小岩1丁目2番7号

⑲ 出 願 人 株式会社 ヤマダアト 東京都江戸川区北小岩1丁目2番7号
マイザー

⑳ 代 理 人 弁理士 白川 一

㉑ 実用新案登録請求の範囲

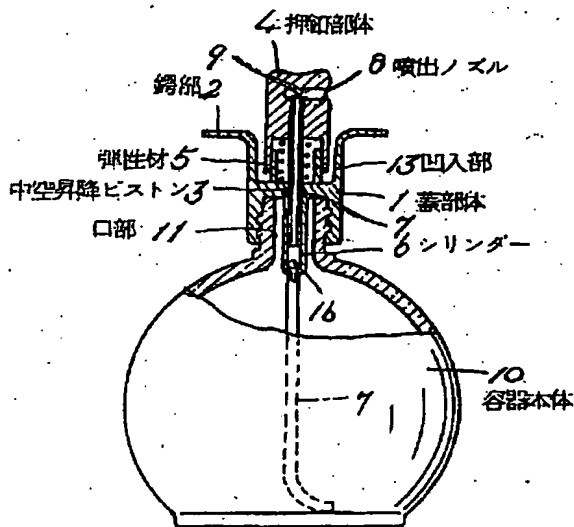
香水を収容する容器本体の口部に係着するようにした蓋部体の頂面周側に鍔部を環設し、該蓋部体の中央部に頂面から凹入部を形成すると共に弾性材を介装して噴出ノズル部を側面に形成した昇降ピストンの押釦部体を設け、前記昇降ピストンの下端部を前記蓋部体に設けられたシリンダー中に挿入し、該シリンダーを容器体の口部内に挿着し、しかも該シリンダーには容器本体に垂下するパロブを連結形成すると共に逆止弁を設けたことを特徴とする香水容器。

図面の簡単な説明

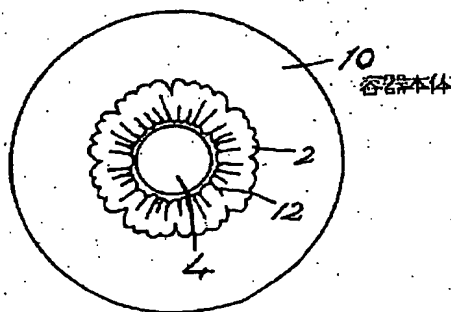
図面は本考案によるものの実施態様を示すもので、第1図は本考案による香水容器の部分切欠側面図、第2図はその平面図である。

然してこれらの図面において、1は蓋部体、2はその鍔部、3は中空昇降ピストン、4は押釦部体、5は弾性材、6はシリンダー、7は吸上げパイプ、8は噴射ノズル、10は容器本体、11はその口部、12は花卉模様、13は凹入部、16は逆止弁を示すものである。

第1図



第2図



公開実用 昭和61-134712

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-134712

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)8月22日

A 45 D 34/02

6671-3B

B 65 D 83/14

D-7912-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 香水容器

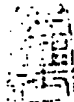
⑯ 実 願 昭60-17779

⑰ 出 願 昭60(1985)2月13日

⑱ 考 案 者 山 田 博 條 東京都江戸川区北小岩1丁目2番7号

⑲ 出 願 人 株式会社 ヤマダアト 東京都江戸川区北小岩1丁目2番7号
マイザー

⑳ 代 理 人 弁理士 白川 一一



明 細 書

1 考案の名称 香水容器

2 実用新案登録請求の範囲

香水を収容する容器本体の口部に係着するようにした蓋部体の頂面周側に鍔部を環設し、該蓋部体の中央部に頂面から凹入部を形成すると共に弾性材を介装して噴出ノズル部を側面に形成した昇降ピストンの押釦部体を設け、前記昇降ピストンの下端部を前記蓋部体に設けられたシリンドー中に挿入し、該シリンドーを容器体の口部内に挿着し、しかも該シリンドーには容器本体内に垂下するパイプを連結形成すると共に逆止弁を設けたことを特徴とする香水容器。

3 考案の詳細を説明

「考案の目的」

本考案は香水容器の考案に係り、片手操作で簡易にスプレー操作することができ、コンパクトで包装取扱いが容易であり、又審美価値の高い香水容器を提供しようとするものである。

産業上の利用分野

香水を噴霧化して使用できる香水容器。

従来の技術

香水容器としては従来から種々のものが知られており、香水を噴霧化して使用するものについても噴出操作作用の復元性の中空球体をノズルを有する封塞部体の側方にパイプを介して接続し、この中空球体を押圧してノズル部から噴出するようにしたものが相当に広く採用されている。

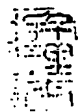
考案が解決しようとする問題点

ところが上記したような従来のものにおいて香水の噴霧化を行うには容器本体を片手で持ち、他方の手で前記中空球体を押圧操作することが必要であつて、操作性に劣る。又前記のような中空球体を側方に接続垂下したものは取扱いも容易でなく、場合によつては容器本体と同等に近いような容積をもつた中空球体が連結されるようなこととなつて包装や陳列に余分なスベ-

を必要とする。

「考案の構成」

123



問題点を解決するための手段

香水を収容する容器本体の口部に係着するようにした蓋部体の頂面周側に鍔部を環設し、該蓋部体の中央部に頂面から凹入部を形成すると共に弾性材を介装して噴出ノズル部を側面に形成した昇降ピストンの押釦部体を設け、前記昇降ピストンの下端部を前記蓋部体に設けられたシリンダー中に挿入し、該シリンダーを容器体の口部内に挿着し、しかも該シリンダーには容器本体内に垂下するパイプを連結形成すると共に逆止弁を設けたことを特徴とする香水容器。

作用

鍔部の下面に入差指と中指に係止させた状態で、親指により押釦部体を押圧することができ、このような押釦部体の押圧で逆止弁より上方に収容されていたシリンダー内香水をピストンの内孔を介して噴出ノズルから噴出させる。

押釦部体に対する押圧を解放すると弾性材の復元作動でピストンが上昇しシリンダー内が負圧状態となつて逆止弁を介し容器本体内の香水

はシリンダー内に補給される。従つて再度の押釦部体押圧によつて前記同様に香水噴出が得られる。

実施例

上記したような本考案によるものの具体的な実施態様を添付図面に示すものについて説明すると、本考案によるものは第1図に示すように容器本体10の口部11に蓋部体1が螺合その他の構造によつて装脱可能に係着することは従来から知られているこの種香水容器と同様であるが、本考案ではこのような蓋部体1の頂面周側に鏝部2を環設し、該鏝部2の上面に第2図に示すような花卉模様12を施す。又このような蓋部体1の中央部に頂面から凹入部13を形成し、該凹入部13の中心部に中空状昇降ピストン3を挿入し、該昇降ピストン3の上部に噴出ノズル8を側面に向けて形成した押釦部体4を取付け、中空昇降ピストン3の内孔を前記噴出ノズル8に連通する。上記押釦部体4と蓋部体1の凹入部13との間には弾性材5を介装し



て押釦部体 4 を常に上昇するように作用せしめられており、又蓋部体 1 には前記昇降ピストン 3 の下端部を挿入するシリンダー 6 が形成され、該シリンダー 6 は容器本体 10 の口部 11 内に挿着されている。前記シリンダー 6 の下端部には球弁のような逆止弁 16 を設けると共にその下方に容器本体 10 の底部に達する吸上げパイプ 7 が連結されている。前記したピストン 3 の下部外面にはパッキングを取付けて押釦部体 4 に対する押圧および弾性材 5 の復元作用によつて自在な昇降を得しめながら、しかもシリンダー 6 の内面との間に有効なシール関係を形成している。又押釦部体 4 に設けられた中空昇降ピストン 3 と蓋部体 1 との間にパッキング 7 を設け、該ピストン 3 とノズル 8 との間にも薄層の弁体 9 などを適宜設けて香水成分の無用な損失を防止するように成つている。

鏝部 2 に花卉模様 12 が形成された上記図示のものにおいて、該鏝部 2 の中心に位置した押釦部体 4 は雌しべや雄しべからなる芯部として

の体裁を形成し、斯うした花芯部としての押釦部体4の噴出ノズル8部分から該押釦部体4を押圧することによつて逆止弁16より上方のシリンダー6内香水が適宜に噴出されることは明らかであり、即ち噴出された香水は花芯部からの吐出としての感覚を呈する。

「考案の効果」

以上説明したような本考案によるときは第2指と第3指を鐸部の下面に係止させた状態で押釦部体を第1指で圧下することにより香水の噴霧化が得られ、即ち片手操作でスプレーすることが可能であり、又押釦部体は蓋部体の域内に組込まれて嵩張ることがなく、コンパクトな構成によつて香水のスプレーを得しめ、従つて香水容器の包装や陳列に際して余分なスペースを必要としないことになり、前記鐸部に対し花弁状のような模様を施すことによつて趣味性が大で審美価値の高い香水容器を得しめるなどの効果を有しており、実用上その効果の大きい考案である。

特
許
登
録
商
標

4 図面の簡単な説明

図面は本考案によるものの実施態様を示すもので、第1図は本考案による香水容器の部分切欠側面図、第2図はその平面図である。

然してこれらの図面において、1は蓋部体、2はその鍔部、3は中空昇降ピストン、4は押釦部体、5は弾性材、6はシリンダー、7は吸上げパイプ、8は噴出ノズル、10は容器本体、11はその口部、12は花卉模様、13は凹入部、16は逆止弁を示すものである。

実用新案登録出願人

株式会社ヤマダアトマイザー

考 案 者

山 田

博 條

代理人 弁理士

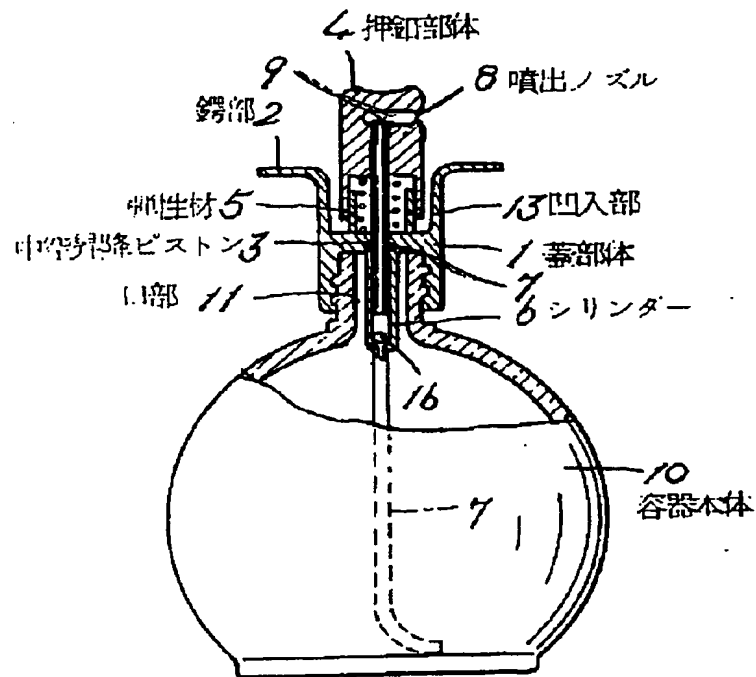
白 川

一

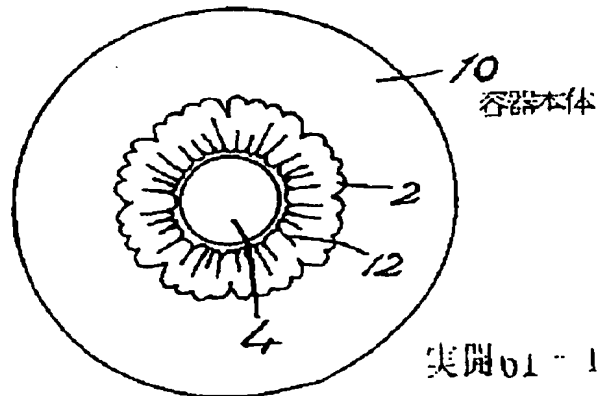


127—②

第 1 図



第 2 図



128

実開61-134712

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.